

## 1. 調査報告概要表

作成日 2009年2月17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1592100067
法人名	社会福祉法人 慈豊会
事業所名	グループホームおおむる
所在地 (電話番号)	新潟県 阿賀野市 大室 1953 - 1 (電話) 0250 - 61 - 2700
評価機関名	エム・エム・シー総合コンサルティング 株式会社
所在地	新潟県 上越市 富岡 3446
訪問調査日	平成21年2月6日

## 【情報提供票より】(平成20年12月1日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 20 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤	14人, 非常勤 5人, 常勤換算 14.

## (2)建物概要

建物構造	木造造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	-	
食材料費	朝食	350 円	昼食	400 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

## (4)利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名	
要介護1	5 名	要介護2	6 名			
要介護3	6 名	要介護4	0 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	83.5 歳	最低	75 歳	最高	92 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	阿賀野病院、笹神歯科診療所
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成20年4月に開所されたグループホームでデイサービスセンターが隣接し、静かな地域で清潔感と温かさの感じるホームです。『人とのふれあいを大切に、安らぎと満足のある自然な環境』、『優しさにあふれた、地域に愛されるホーム』などの基本理念でも確認できるとおり、ホーム内は職員の間人関係の良さと地元の方言が相まって、笑顔と活気に満ち溢れています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回の評価が初めてのため、該当しません。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	リーダーを中心に職員が自己評価をすることにより、今まで気付かなかった点や気づきがあり、今後評価を受けて更なるサービス向上に努めることを確認しました。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議では、自治会長・市の担当者・協力施設の特養の施設長・デイサービスの管理者などに出席していただき、ヒヤリハットを中心に活動報告などを報告し、ご意見やアドバイスをいただいています。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	ホームの玄関に意見箱を設置しているほか、契約時に第三者委員の紹介や市の機関を説明しています。また運営推進会議にはご家族から参加していただき、その場で意見を確認しています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会長が運営推進会議に参加して下さっており、地域の防災と施設の連携を話し合っています。また、夏まつりの行事も地域に回覧板を回し、たくさんの地域の方々に参加をいただきました。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 ( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人共通の基本理念のもとにご利用者がその人らしく生き生きと生活できるようにしています。理念は施設玄関・トイレ他至る所に掲示しています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	準職員から正職員への昇格試験の際に必ずチェックするなど、管理者・職員は常に基本理念を把握し、その実現に向けて努力をしています。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	基本理念はパンフレットに載っており、また地域の方々にもご理解をいただけるよう、玄関正面に設置するなど工夫しています。また、3ヶ月に1度広報誌を作成し、ご家族・地域のケアマネに配布しています。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会長が運営推進会議に参加して下さっており、地域の防災と施設の連携を話合っています。また、夏まつりの行事も地域に回覧板を回し、たくさんの地域の方々に参加をいただきました。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての評価ですが、リーダーを中心に職員が自己評価をすることにより、今まで気付かなかった点や気づきがあり、今後評価を受けて更なるサービス向上に努めることを確認しました。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、自治会長・市の担当者・協力施設の特養の施設長・デイサービスの管理者などに出席していただき、ヒヤリハットを中心に活動報告などを報告し、ご意見やアドバイスをいただいています。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入退居状況とヒヤリハット報告及び事故報告を月に一回必ず市の担当者に現状報告に伺っています。またそれ以外にもご利用者からの相談をしたり、それについてのアドバイスをいただいています。		
6-2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2ヶ月に1回の内部研修で身体拘束のグレーゾーン(金銭管理・電話対応など)についての話をしており、ユニット会議の場でもご利用者の行動を理由なく制限しないように話し合っています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一回請求書送付時にご家族様への現状報告、収支報告を行っており、必要時はその都度お電話や来所時にも状態を報告しています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関に意見箱を設置しているほか、契約時に第三者委員の紹介や市の機関を説明しています。また運営推進会議にはご家族から参加していただき、その場で意見を確認しています。		
8-2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回全職員が参加するユニット会議の機会に話し合う場を設けているほか、毎日ではないが理事長が直接職員と話す機会も設けており、職員の不満改善に努めています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はあまり行わないように配慮し、必要な職員移動や離職に対応できるようご利用者一人当たり二人の職員担当制を設けており、細かい引き継ぎができるよう細心の注意を払っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9-2	18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	基本的なケア方法、事故防止、感染症、救急法等のマニュアルを管理者が中心に職員の協力を得て施設の実態に合わせ整備されています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修をおおむね二か月に一度行っており、必要時には外部研修も参加を促しています。外部研修参加者は復命書を作成し、研修に参加できなかった職員も研修の内容が分かるようにしてあります。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	阿賀野市4ヶ所のグループホーム管理者会議を二～四か月に一度行っているほか、職員同士の交流ができるよう職員も参加した交流会を年に三回程度行っています。		
11-2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は働きやすい現場になるよう、常に職員に声を掛け話す場を設けるようにしています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設ご利用前に、可能な限り施設を見学する機会を設けています。また、入院などで施設見学が不可能な場合は写真を見ていただいたりして、ご本人の不安がないよう話を伺うようにしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に梅干作り、畑作業を行う中で、職員は一人お一人に寄り添い、話を傾聴しながらその人の人生観や知恵を伺い、学んでいます。またそのような協同作業の中で利用者も明るい雰囲気生き生きと生活されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13-2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた際は、日ごろの様子や最近の様子をできる限りお伝えするよう努めています。また、体調の変化があった場合はご家族に連絡するなど臨機応変に対応しています。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者お一人お一人と接する中で見出す発見や意向は細かくケース記録に記録し、全職員が把握できるようにしています。また、共有した情報をもとにその都度対応を話し合い、必要時はサービス内容を変更してよりご本人の意向に沿えるよう努力しています。		
14-2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お一人お一人と話す中で得た情報や、ご家族からの話をもとに面接台帳に記録しある程度の把握はできています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスには可能な限りご家族も参加していただき話し合いを行っていますが、その他ご家族の面会時にもご利用者の話やご家族の意見などを聞く機会を持っています。また、必ず本人からの意向や要望をお聞きし、それらを踏まえて介護計画を作成しています。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に応じて見直しています。現在まで計画の変更が必要なほど状態の変更があったご利用者はいませんが、状態変化に応じて介護計画を見直す体制も整えています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族が高齢である場合や特別な事情がある場合は、ご利用者の援助ができる範囲で受診や買い物(私物)の代行を行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医がある場合は入所後もそのまま受診しており、ない場合はご希望に沿った必要な病院を紹介しています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ケアはまだ前例がありませんが、ご本人の意向やご家族の意向をお聞きし、できる限りは対応したいと考えています。		重度化した際の終末期に向けた方針を早い段階で検討し、方針を共有できる体制作りを期待します。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	広報誌に写真・名前を載せる際にも必ずご家族に了解を得ています。また、職員にはフロア内で記録をしない徹底をしています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課に縛られることなく、本人のペースに合わせ可能な限りその日の状態で自由に行動できるように配慮しています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー作りは職員が交代でご利用者の好みを取り入れながら作成していますが、週に何度かその日の気分でメニューを決められるよう希望食をとっています。また、食事の準備・片付けができる利用者には協力していただいています。		
22-2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	新入所から1週間は排せつパターンを把握するため、チェックを行っています。また、おむつの使用を減らすため声掛け誘導を行い常に清潔でいられるよう配慮しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を楽しみにされている方には連日の希望にも対応しています。また、声かけはしますが入浴をお望みでない利用者には足浴・清拭で対応しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑や花壇の整理を行い世話や収穫でご利用者が自発的に楽しんでいただけるよう配慮しています。また、様々なレクリエーションや家事を通して気晴らしやストレス解消に努めています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日買い物にお誘いし外に出られる環境を作っているほか、畑がある時期は自由に行き来できるように遠くから見守るようにして対応しています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
25-2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていませんが、グレーゾーンの見極めを常に頭に入れるよう話をしています。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	朝8:00～夕方6:00までは玄関を開けており、全職員がカギをかけることは意味もなくご利用者の行動を制限することであることを理解しています。		
26-2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員には常にヒヤリハット報告を出してもらうようにし改善策を打ち出しています。また、季節に合った医療講義を看護師から行ってもらうことで事故の防止に努めています。		
26-3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	おおむね2か月に1度看護師から急変時や事故発生時の対応について講義を行ってもらっているほか、年に2回AED講習なども行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 ( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回消防署立会いのもと避難訓練を行っています。また、地震の訓練も実施予定です。地域の方との連携については、運営推進会議で話が出ており調整しています。		施設内に非常用食品の準備がされておりましたので、早急に対応されることを期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量が少ない場合は、好みの食材を提供できるように普段から好みの把握に努めています。		献立は管理栄養士や栄養士のアドバイスを受け、栄養バランスへの配慮を検討されることを期待します。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や台所には季節の飾りを作ったり、手作りのカレンダーを配置して季節がわかる様工夫しています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはなるべく自宅から使い慣れた物を持ってきていただくように声掛けしており、居室毎にご利用者の個性が出るよう工夫をしています。		